

青丘文庫研究会 月報

No.299

2021年11月3日

青丘文庫研究会 〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22 (公財)神戸学生青年センター内
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019 <https://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
(※神戸学生青年センターは2021年5月に上記に移転しました)

①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)

②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)

郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>
年間購読料3000円。在日朝鮮人史研究関西支部会費、5000円/年 (雑誌3冊を入手できます。)

<巻頭エッセイ>

市民活動を記録する「六甲アーカイブ」を、ネット上でスタートさせました？ 飛田雄一

コロナがなんとか収まりそう？だ。このままいくと、リアル (対面) の青丘文庫研究会、そして久々の忘年会/新年会も開くことができそう？ ZOOM研究会は、遠方からの参加も可能でいい面もあるが、やはり物足りない。

今年5月に、青丘文庫研究会の事務局でもある神戸学生青年センターが移転した。50年近い場所で私には思い入れいっぱいセンターで、寂しいが、新センターは阪急六甲駅から更に近いところだ。本部のウエスト100は、駅から西へ100メートル、分館のノース10は、駅から北へ10メートルだ。ぜひ、またご来場いただきたい。

当然、書棚/倉庫にあった膨大な資料の整理が必要となった。断捨離したものもあるが、できないものも多かった。こんなものが残っていたのかという「お宝」もあった。なかでも市民団体の発行したニュース/冊子は貴重だ。資料館/博物館を作って保存/公開するのがベストだ。が、なかなかそうはいかない。

そこで、いま、堀内稔さんと進めているのが、「六甲アーカイブ」だ。堀内さんは、運動体のチラシ/ニュースも保存している。そして、それを順次、PDFファイルに変換している。今回のセンター移転で、断捨離できない貴重な資料も堀内さん宅に送り、PDFファイル化してもらっている。そして、テスト版「六甲アーカイブ」がすでにスタートしている。ほんとにテスト版でお見せするには恥ずかしいが、決意表明としてここで発表する。ホームページアドレスは、<https://ksyc.jp/rokkor-archival/>。現在、メモ的だが、以下のように掲示している。実際に現在PDFファイルをはりつけているのはその一部だ。

■六甲アーカイブ■作成者：飛田雄一 (HIDA Yuichi e-mail hida@ksyc.jp) 最新改訂 2021年7月21日 ※堀内稔さん (むくげの会) の協力のもとにつくるものです。

<ホームページに冊子を貼る構想>2021年5月1日 飛田雄一

●1 学生センターホームページに、センター発行の冊子をPDFファイルで貼り付ける。(学生センターにかんしては、学生センターのホームページ <https://ksyc.jp/>内に引っ越しするのがのそましい?)

震災後の被災留学生支援集の資料集/「朝鮮語を学んで」シリーズ、何冊か/センター20年誌/センター30年誌/センター40年誌/センター40年、新聞記事集/浄慶さんの冊子/成川さんの冊子/大森あいさんの冊子/中村敏夫さんの本、2冊 (以下、絶版になったということにして) /小池基信さんの本/佐治孝典さんの本/金英達、飛田雄一強制連行資料集

1990年版/八幡明彦『<未完>年表・日本と朝鮮のキリスト教100年』/その後、5冊/農塾の記録/有機農業ワークキャンプの文集ほか/食料環境セミナー/朝鮮史セミナー/現代キリスト教セミナー全記録 (そのホームページアドレスを書くだけでもいい?)

●2 むくげの会ホームページにも同じようにむくげ通信/趙世熙小品集 (以下、絶版になった?)、として/中国の朝鮮族 ※これはやりすぎ?/朝鮮・一九三〇年代研究 ※これもやりすぎ?

●3 神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会 ニュース/資料集、高木さんほか作成/イラスト集、若宮さんら作成

●4 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会

ニュース/中国調査団報告集/韓国調査団報告集/副読本冊子

※これは、在庫があるかいいのでは？

●5 ベ平連神戸関係

アンボ神戸/他に、あるかな？

●6 阪神教育闘争関係

50周年集会冊子「忘れまい424」/その他、集会資料集？

●7 申京煥の会

証言集1/証言集2/証言集3/9, 30集会資料集/「自分の意志で帰りたい」

●8 神戸・南京をむすぶ会/各種冊子/

南京展、目録/南京展、報告集/各回のフィールドワークノート/報告書

●9 青丘文庫

「在日朝鮮人史研究の現段階」資料集/月報 ※一覧表の頁を

つくる/日韓合同集会資料集/関西、関東部会合同研究会資料集

●10 強制連行全国交流集会資料集/報告集(真相究明ネットはすでにだいたい貼り付けている?)

名古屋/神戸西宮(10回分のうち、どのくらいあるかな?)

●11 指紋押捺関係

金成日関係/梁泰昊関係、これは、資料集がないか?、裁判資料を載せるか?/林弘城関係、ニュースがある?/兵指共ニュース(※以下の段階に目次集をいれる?)

●12 東亜日報を読む会

●あと、神戸空襲を記録する会?/神戸NGO協議会?

●●以上、アイデアをメモしました。飛田雄一

だいぶ大風呂敷を広げたようだ。先日、同志社大学の院生が学生センターを訪ねてきた。1970年代に韓国から北朝鮮への亡命を求めて日本に密航した丁勳相の研究をしているという。センターの「お宝」のなかにベ平連神戸が作ったチラシがあったし、3センチ?の太さの公判資料集もあった。利用されることは嬉しいことだ。また同級生が1980年代の指紋押捺反対運動の研究をしているという。引越し後のセンターに「スキャン後廃棄」のダンボールに関連資料がけっこうあった。それを送ってスキャン(PDFファイル化)してもらったことになった。これも嬉しいことだ。この「スキャン後廃棄」のダンボールがまだ4、5箱ある。これは自分ですつもりだが、のぞいてみたい方は連絡をよろしく。そして、自身でスキャンしてPDFファイルを送ってくれたら、非常に嬉しい。

「在日朝鮮人史運動史研究会」51号

2021年10月、A5、130頁、発行：緑蔭書房、2400円+税

※月報読者には、送料とも特価2160円で販売します。事前に、<00970-0-68837 青丘文庫月報>に送金をお願いします。

●目次●

「内鮮協定」と戦時期の渡航管理政策について——一九三〇年代末を中心に 福井 譲

大阪空襲と朝鮮人一戦中、そして戦後 塚崎昌之

戦後電源開発と朝鮮人労働者—国鉄土幌線工事を事例に 上田文夫

日本人家庭に生まれ(韓国人)として生きた

山梨県在住女性のライフヒストリー 鮎渾 譲

《資料紹介》

鵬野義雄「内地行朝鮮人労働者の概況」 樋口雄一

<青丘文庫研究会の記録> 月報が2021年6月以来の発行となってしまいました。この間、メールニュースを発行していました。メールニュース希望の方は、飛田雄一 hida@ksyc.jp までメールをお願いします。以下、のちのちの青丘文庫研究会歴史のために記録を掲載しておきます。

<2021年>

- ・ 6月13日(日)、在日(休み)、近現代史(①金早雪「韓国地域福祉と感染症対策の小史」、②李恵子『済州・美しさのあなた』(李恵子訳、キンドル版)について)
- ・ 7月11日(日)、在日(午後2時~①福本拓「1980年代以降の大阪における在日朝鮮人自営業者の分布と集住地区の関係」、午後3時半~②安岡健一「ある在日コリアンのキリスト者に関するノート」)、近現代史(休み)
- ・ 8月は休み/第9回在日朝鮮人史日韓合同研究会は来年に延期しました。
- ・ 9月12日(日)、午後3時半~、在日(塚崎昌之、「『吹田の戦争遺跡をめぐる』に朝鮮人をどのように記述したか—吹田と朝鮮人」)、午後2時~、近現代史(姜健栄「米国アラバマ州の韓人戦争花嫁と

Don Lee 牧師) ※姜健栄さんの発表は中止、かわりにNHK「青丘文庫をたずねて」15分、19821225、
& 「ある手紙のといかけ」60分、19810614 を上映。

- ・ 10月10日(日)、午後3時半～、在日(「在日ベトナム人の農地利用と地域社会の対応—姫路の事例から」瀬戸徐映里奈)、午後2時～、近現代史、『歴史からひもとく竹島/独島領有権問題 その解決への道のり 歴史総合パートナーズ』を刊行して」坂本悠一

●青丘文庫研究会●2021年11月14日(日)午後1時～

(■11月の朝鮮近現代史研究会は休み)

青丘文庫研究会の上映会! 第5弾! 約1年ぶりの上映会はかつての猪飼野、大阪市生野区の在日韓国基督教教会館(KCC会館)にて開催することとなった。題して、一映像を通して見る『まだ視ぬアーカイブを可視化する!』!!! 貴重な3本のアーカイブ映像を上映する。1本目はかつての猪飼野在住の亡き高仁鳳さんが製作した『幻のフィルムでつづる建国の60年』。2本目は朴壽南監督の復元プロジェクト『日韓100人が語る歴史の証言映像』の中から復元されたアーカイブ映像の一部をダイジェスト版で。3本目は韓国映像資料院の協力により1941年製作『家なき天使』(崔寅奎監督)を上映し、水野直樹氏に解説をしていただく。

「青丘文庫」は神戸長田のケミカル産業に従事していた韓哲曦(ハン・ソッキ)が朝鮮史関係文献を集め1969年に開設したもので、1997年に神戸市立中央図書館内に再オープン。今回の上映会は、そこで定期的に行われている「青丘文庫研究会」の例会として位置づけられている。

●第1部 映像を通して見る! 「幻のフィルムでつづる建国の60年」

2005年9月、白頭学院建国学校(建国)校友会の事務所の古い段ボール箱から、学校の草創期を記録した貴重な16ミリフィルム7本(1946年～1957年撮影)が発見された。フィルムには解放後の建国生の希望に満ちた表情が生き生きと映し出されていた。故高仁鳳さんは建国創立60周年(2006年)事業の一環として、この貴重なフィルムを後世に伝えていこうと、ドキュメント映画『幻のフィルムでつづる建国の60年』(30分)を製作する。

高仁鳳さんは1941年、大阪で生まれ、1947年に全羅北道裡里に帰国。1957年、日本に戻り、白頭学院建国中学校、高校卒業。プラスチック関連業界紙の仕事をしながら大阪経済大学経営学部を卒業。1968年、印刷会社僑文社を継承。1989年、ケイビーエス株式会社に改組し代表取締役、その後会長。白頭学院建国学校理事、校友会副会長を務めた。常にカメラを持ち、様々な行事・日常の出来事などを撮影し、膨大なビデオテープの記録を遺す。2012年12月12日12時、永眠。

トーク:林芳子(故高仁鳳夫人) 聞き手:石川亮太(立命館大学教授)

●第2部 映像を通して見る! 復元されたアーカイブ 朴壽南監督のまなざし

「語る言葉のない沈黙の表情は映像でしか描けないんです。」文筆の人から映画の人になった朴壽南監督が30年前からフィルムに刻んだ日韓の証言者は約100名、50時間におよぶという。一昨年6月、神戸映画資料館でその一端を垣間見た。映写機が廻ると唐突に軍艦島が現れた。別撮りのために音声は無く、フィルムを回す音だけが響いた。1985年に撮られた軍艦島がスクリーンに朦朧と漂い、玄海灘に揺れていた。小船に乗り込み軍艦島に向かうのは朴壽南監督と徐正雨さん。徐正雨さんは14歳で軍艦島の海底炭鉱へ連行され長崎の三菱造船所で被爆され、強制労働や被爆による病苦に苦しみながら、2001年に急逝され鬼籍に入られた。残念ながら証言されたほとんどの人々が鬼籍に入ってしまった。

今回、特別に「軍艦島」「徴用工」「被爆者」などをテーマに復元されたアーカイブ映像の一部をダイジェスト版として上映する。

ビデオメッセージ:朴壽南監督 朴麻衣(プロデューサー)

●第3部 映像を通して見る! 発掘された植民地映画「家なき天使」

韓国映像資料院は、2004年と2005年に、日本統治時代に作られた劇映画「家なき天使」など4本のフィルムを中国のフィルム・アーカイブで発掘した。「家なき天使」は当時社会問題となった浮浪児救済事業である「香隣園」の実話をもとにした作品で、京城(現:ソウル)の街に溢れる浮浪児を救おうと、ひとり牧師が孤児院で苦闘しながら子どもたちを育てる物語である。「内鮮一体」を掲げた植民地政策が進められていた当時、朝鮮映画への関心が日本「内地」で高まり、「家なき天使」も上映された(のちに事実上の上映禁止となる)。

水野直樹氏のトークでは、「家なき天使」の映画史的意味を考えるとともに、モデルとなった牧師方洗源が1930年代には京都や東京の在日基督教会で活動していたことなどの新しい事実を明らかにする。

『家なき天使』（1941年/73分/DVD上映）提供：韓国映像資料院

トーク：水野直樹（京都大学名誉教授）

《資料代》1500円 * どなたでもご参加いただけます

主催：青丘文庫研究会 神戸映画資料館 協力：韓国映像資料院

お問合せ ☎078-754-8039（神戸映画資料館）

【E-Mail】 info@kobe-eiga.net（神戸映画資料館） hida@ksyc.jp（青丘文庫研究会）

場所：在日韓国基督教会館（KCC 会館5階ホール）

〒544-0032 大阪府大阪市生野区中川西2丁目6-10

■地下鉄千日前線・今里筋線「今里駅」②番出口から南へ徒歩15分

■市バス：中川西公園前

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に伴う対応について】

- ・間隔をあけてご着席ください。
- ・マスクの着用、咳エチケットへのご協力をお願いします。
- ・発熱など体調不良のある方はご来場をお控えください。
- ・ご入場前、ご退場後に会場の消毒、換気を行います。

【今後の研究会の予定】

12月12日（日）、在日（広瀬貞三「戦前の吉野川水系祖谷川の発電所工事と朝鮮人労働者」）、近現代史（未定）

<2022年>1月9日（日）、在日（藤川正夫「植民地出身公務員の取扱い—サ条約と高辻回答—」）、近現代史（未定）

2月13日（日）、在日（未定）、近現代史（上野都）

3月13日（日）、在日（未定）、近現代史（未定）

【月報の巻頭エッセイの予定】 12月号以降の原稿です。締め切りは20日です。梶居佳広、高野昭雄、李裕淑、藤川正夫、張允植、松下佳弘、三宅洋介、金早雪、高希麗、伊地知紀子、川那辺康一、廣瀬陽一、高正子、斎藤正樹、土井浩嗣、上田文夫、中川慎二、塚崎昌之、宇野田尚哉、姜健榮、佐野通夫、三宅美千代、全淑美、太田修、藤永壮、水野直樹、河かおる、本岡拓哉、梁千賀子、山根俊郎、川瀬俊治、小野容照、樋口大祐、梶居佳広、高木伸夫、長志珠絵、藤井幸之助、黒川伊織、吉川絢子、李月順、高祐二、李景珉、青野正明、呉仁済、勝村誠、松田利彦、飛田雄一（思いつくままにリストアップしました。前倒しで原稿を書いてくださってもOKです。）

【編集後記】 今年6月以来の印刷版「月報」です。コロナのせいですが？ ■青丘文庫研究会会員の方には、本月報とともに会員証をお送りします。会員の年会費は3000円です。よろしくお願ひします。これと別に在日朝鮮人史運動史研究会関西西部会の会員は年会費5000円をお支払いください。雑誌3冊をお送りしています。 ■青丘文庫研究会、以前は、ふたつの研究会を別の日に開催していたこともありましたが、最近、同じ日に開催しています。午後1時から5時まで4時間の研究会は長すぎるので、最近、1時間半ずつです。ZOOMのときもそのようにしました。あまり長い研究会は、よくないと思っています。12月の研究会（12日、日）は、コロナがこのままの状況であれば、対面、そして忘年会を開催したいと思います。みなさん健康に留意してご活動ください。 飛田雄一 hida@ksyc.jp